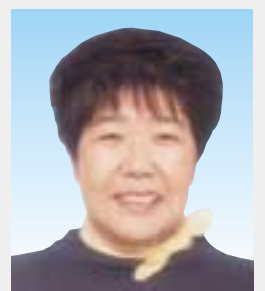


誇りを持てる街を次世代に

女性の生涯学習

大けやき女性フォーラム21

阿部 綾子



東根市には、樹齢千五百年以上の国指定の特別天然記念物・大ケヤキがある。力強く根を張り、十六段の幹回りは豪快であり、空を覆うばかりに枝葉を広げるたくましさは、市民の心よりどころである。遠い昔から街をやさしく見守る母の姿にも似て愛着ひとしおである。

平成二年、東根市は市民の生涯学習推進を目的とし、「生涯学習市民会議」を設置し、各地区公民館を通して推進することにした。東根地区の東根公民館は、「生涯学習地区民会議」を設け、それを「大けやき会議」と名づけた。そして、集落公民館長部会のほか、地域活性化には女性の柔らかな発想と行動が必要と、平成五年に女性部会が設置された。それが、大けやき女性フォーラム21である。

生涯学習を通じて二十一世紀の在るべき東根地区像を求め地域づくりを考える組織であり、部員数も会の名称にこだわって二十一名とした。母のような大ケヤキのエネルギーを取り込み、子供たちが「東根大好き」と言い、

私たち女性も胸を張って誇りにし愛着が持てる街にしよう、主体性を大切にしながら活動している。メンバーは三十代から六十代まで幅広く、仕事も会社員、公務員、団体職員、自営業、専業主婦と多様である。しかし、母親である点は共通している。嫁いできて、産んだ子供が東根をふるさととして育っていく姿を見守ることは、女性が共有できる大きな力である。

従来は、「そこにあるだけ」の存在であった大ケヤキにスポットを当て、学習や活動の切り口はすべて大ケヤキとすることを行動指針とした。東根地区をどんな街にしたいのか、自分たちがどんな役割を果たすべきなのか、女性の感性をどう反映させるべきか、を考え始めた。東根公民館のスローガン「香り高い文化の街づくり」を踏まえ、グループの第一歩を、「香り高い文化」を探す事から始めた。県外視察を行い、水戸の芸術館の見事な建築設計に圧倒され、多賀城の最高級の音楽ホールにはため息をつき、活発に生涯学習活動をし

ている浦和の女性グループと交流を行った。学習活動では、街づくりの先生と情報交換を続け、西川町の伝承館では草木染めを体験、大石田町では観光ボランティアを学び、県主催の「女性の目で見える街づくり講座」に参加した。次第に、生きる充実感を分かち合える地域づくりを話し合うようになった。

ケヤキの葉を使ったケヤキ染めの開発が、地域づくりに参加する糸口となった。大ケヤキを図柄にしたケヤキ染めの大型タペストリー制作を企画、市民に参加を呼びかけたところ、渦を巻くように市民を引き込むことができた。ケヤキ染めの作品が市の成人式で記念品に採用されたり、人気が高まっていった。平成十一年の全国スポーツレクリエーション祭東根会場では、県外から訪れた人にケヤキ染めを記念品に贈ることを市へ提案。古い花嫁衣装十三着分をほこしケヤキ染めして袋状の「金封ふくさ」七百個を手づくりし、花嫁の幸福と大ケヤキのパワーとをプレゼントした。郷土史研究者とその仲間たちが毎年秋に開催



ケヤキ染め糸を使った甲冑づくり

する「Look to」伝承文化」公演では、昔の東根城攻防の「鷺の森合戦」再現に協力、役者が身に付ける甲冑、兜を漆塗りで本物同然の紙製でケヤキ染めの糸を使い作り上げた。真夏の三カ月間、細かく難しい作業に打ち込み、会員以外の市民も手伝ってくれて完成した。完成の瞬間、作業場は歓声に包まれた。イベントに参加し、その中で婦人会の方々や地域の女性たちと友人になり、イベント成功の感動を共有した。地域の歴史を学ぶことで自分が高められていくのを実感した。市民ボランティアとの新しい出会いから楽しい街づくりが生まれ、その活動から得られる喜びが生涯学習へつながっていくことを学んだ。

地域づくり仲間との会話や笑い声が街の中で弾むようになる。それまで話題は家族のことだけだった主婦、職場と家庭のかかわりのことだけだったOLも、「街の動きが気になるようになった」と話す。「無関心」が「興味」

に変わり、「感動」が街づくりの力になることを確信した。女性の個人的な特技や趣味が、イベントで生かされ、個性が街づくりで役割を果たした。大ケヤキへのこだわりが、「文化の街づくり」への関心を高めたのだと思う。

平成六年、県の「未来に伝える美しい山形づくり事業」のタウントレイル作品コンテストに応募、パッチワーク作品「親子で歩く大けやき周辺歴史の散歩道」が大賞を受賞、翌七年には同事業の提言コンクールに応募、「大けやき周辺を歩いて見えてくるもの」が優秀賞を獲得した。東根城の「御霊屋」造りの古さ、羽黒山の鐘に次ぐ古い普興寺の鐘、点在する石垣や「薬研堀」。楽しい伝説や悲恋物語。酒蔵を改装した「東の杜資料館」に展示されている昔の生活用品、農機具。改めて街を見直した結果、愛着と誇りを持って子供たちに伝えられる財産を見つけ喜びを感じた。

市の都市計画事業「水と緑と歴史の広場構想」にも提案を行った。従来の公園造り、道路造りには感じられなかった全体の調和を大切にし、自然の豊かさ、文化的な懐かしさが感じられる美しく美しいものを造ってくれるよう提案した。女性の感性で訴えた要望だったと思う。都市計画事業が進展し、少しずつ大ケヤキ周辺に変化が見え始めた。城壁が出来る上がり、石畳の舗装、ポケットパークがあり、水辺の空間が心を和ませてくれている。

「大けやき女性フォーラム21」の毎月一回の例会は、夏の期間は午前五時半、大ケヤキの木の下が会場になる。地面にシートを敷き座り、持参のモーニングコーヒーを飲みながら話し合う。九〇〜九七%と高い出席率となり、朝の空気と大ケヤキの緑陰が、パワーを与え

るようだ。私はメンバーの顔を見ながら話を聞くこの時間が大好きだ。結成して八年。途中数名の入れ替えがあったが、全員継続して活動を続けている。子育て、家事、介護、それぞれの仕事をこなしながら、夫や家族の協力があればこそその活動でもある。例会でいつも驚くのは、独創的なアイデア、鋭い感性、プラス思考の企画がどんどん飛び出すことである。よくぞこんな素敵なメンバーがいるものと感心する。いや、八年間の実績が素晴らしい人材にしてくれたのかもしれない。東根市は平成十二年、今後十年間の指針を決める「第三次総合計画」を策定したが、「大けやき女性フォーラム21」のメンバーも意見や提言を出した。総合計画は二十一世紀の行政像として、「勇壮に立つ大ケヤキにたとえ「大けやき行政」を掲げ、目指す都市像として、市民と行政との協働による「快適空間、やすらぎと交流のまち」を目指している。「大けやき女性フォーラム21」もまた、女性や子供たちに地域活動に参画することを呼びかけ、感動する喜びを共にしながら、生涯学習や地域活動に挑戦していこうと思う。

阿部 綾子

「大けやき女性フォーラム21」代表
東根市中央1丁目11-10-1

1944年 東京都渋谷区代々木生まれ。
1947年 父の実家・新庄市に戻る。
1969年、東根市に嫁ぎ、夫とともに「アベデザイン工房」を経営。